

## 第7回 市民活動促進協議会(第8期) 会議録

1 開催日時 令和4年 10月 20日(木) 9時 30分~11時 30分

2 開催場所 静岡市番町市民活動センター 2階 大会議室

3 出席者 <出席委員>山岡会長、山本副会長、池田委員、大畑委員、  
片井委員、川村(栄司)委員、川村(美智)委員、  
木下委員、殿岡委員、深野委員  
<事務局>草分市民局長、伊藤市民自治推進課長、田中係長、出雲副主幹

4 傍聴者 0人

### 5 議 事

(山岡会長)

それでは議事に入ります。次第に沿いまして、本日の議題1つ目、「第4次市民活動促進基本計画(案)について」です。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

市民活動促進基本計画案について説明します。2ページでは、策定の経緯について1次計画からの流れを記載しています。

3ページは計画の位置づけです。条例で定められている計画ですので、その説明と、現在市が作成している「第4次静岡市総合計画」との関係ということで、総合計画については観光や環境などの分野ごとの組み立てになっていますが、市民活動の促進については、特定の分野ではなく、市政運営の基本認識として、各分野の施策を下支えするものであると整理しています。

4ページは、特に答申では触れていなかった部分ですが、条例に規定されている市民活動促進の基本原則ということで載せています。中身としては、促進にあたって市民の自主性や先駆性を尊重することや、市民と市との対等な関係の尊重、市民と市との相互理解あるいは市民活動に関する情報の公開や共有といったことを大事にしていくということを書いています。

5 ページから 7 ページは、答申でも議論いただきました現状と留意すべき視点ということで、社会情勢や、人口減少、デジタル化の進展、非営利法人の活動形態の多様化について触れています。議論いただいた SDGs に関しては、7 ページの下のところに、SDGs の説明と多様な市民活動が生まれることそのものが、持続可能な社会の実現に繋がるものであるとして、市民活動を促進していきますというような形で記載をさせていただいております。

8 ページから 12 ページは第 3 次計画の振り返りということで、こちらも前回までに報告させていただいていた第 3 次計画の取組、市としての自己評価を記載しています。

成果指標の達成状況については前回もご説明した通りです。センターの来館者数や協働事業数などは途中まで順調に延びていたけれども、コロナウイルスの影響で中止や、施設で言えば貸し出しの停止もございまして、利用者が減り目標値には達しなかったこと。一方で柱2「やってみる」の市民活動センターの登録団体数や認定 NPO 法人の数については目標値を達成したという状況になっています。

9 ページから 12 ページは第 3 次計画の施策の柱ごと取組状況を説明しています。答申の内容と基本的には合わせていますが、9 ページの「知らせる」については、4次計画に向けて、より市民活動に触れて交流することができる機会を創出していくため、「行政や市民活動団体等、様々な主体による情報発信が促される環境づくりを進める必要があります」ですとか、人や情報の交流の場づくりについて「インターネットの活用等によって、場所や時間、生活様式の違いに関わらず、多くの人が参加できる工夫が必要です」とまとめさせていただいております。

同様に 10 ページの「やってみる」についても、第一歩を踏み出しやすくなるようなきっかけづくりに加えて、継続的に活動に取り組むことができるような支援、環境づくりですとか、当たり前を支え合うという部分もありますので、地域や社会に様々な形で関わる機会、そうしたものを作っていく必要があるのではないかとということでまとめています。11 ページの「深める」も、市の方で方向付けるのではなく、それぞれの団体がそれぞれの目的を達成できるよう、十分に力を発揮できるような環境づくりや、市民が相互に市民活動を支え合えるような環境づくり、気運の醸成が求められています、ということでまとめをしております。

施策の柱 4「つながる」については、市民活動団体の組織や活動の形態が多様化している中で、協働の形が特定の枠組みにとらわれなくなった、その上で行政側もしっかりとその変化に対応していく必要があるということですとか、人口推計等を踏まえると市民活動を継続的なものにするためには世代間の繋がりも必要ではないかとということでまとめをさせていただいております。

ここまでが3次計画の振り返りと現状認識ということで、13ページからは第4次市民活動促進基本計画の考え方になっています。

目指す姿としては答申でご提案いただいた、「多様な人びとがあたりまえに活躍できるまち～主体的にチャレンジできる、自発的に支えあいができる、静岡～」をそのまま使わせていただいています。施策の柱についても、「触れる・楽しむ」「動き出す」「創る・実現する」「つながる・変わる」というように、第3次計画の表現が「知らせる」「やってみる」「深める」「つながる」という施策の循環を通じて課題を解決しさらなる高みを目指すというような説明ですけれども、第4次計画については、市民一人一人が自分のこととしてステージをだんだん上っていくような図を描かせていただいたのでこのようなイメージでどうかと考えているところです。

14ページ以降は、施策の柱ごとの方向性について書いています。施策の柱1「触れる・楽しむ」については、市の取組としては、副題にもあります「市民活動へのちょっとしたきっかけの創出」ということになっています。

取組の方向性としては、こちら答申の言葉をそのまま使わせていただいています、「市民への情報の広がりへの支援」と「市民活動を身近に感じられる機会の創出」で、主な事業と成果指標については検討中ですが、市として個別の事業はこのように目標を持ってやっていかななくてはならないのですが、これができたからといって「触れる・楽しむ」が実現できたかということとは違う話であると思っていますので、個別の事業プラス、どう振り返り、評価をしていくかは後ほどご相談させていただければと思っています。

次の15ページ、こちらは「動き出す」ということで、市の取組としては「日常の一部としての市民活動の実現」、取組の方向性としては、「多様な主体が日常的に市民活動に参加できる環境づくり」、(2)が「市民活動の立ち上げを支える仕組みづくり」。関連する市の事業としては市民活動センターの運営ですとか、あるいは市政参画ということであればVoice of しずおか市民討議会といったものが考えられるかなということで書かせていただいています。

次の施策の柱3、16ページですが、「創る・実現する」については、「市民活動を支える気運を高める」ということで、取組の方向性としては、「自立した市民活動が互いに支え合える仕組みづくり」「市民活動団体の基盤強化のための支援」と2つ挙げさせていただいて、市の関連する事業として、ここも少しまだ薄いのですが、いわゆる寄附という形で市民活動を市民の皆さんで支え合う、ふるさと応援寄附金等によるNPO等指定寄附事業が関連する事業ではないかということで書かせていただいています。

17 ページが施策の柱 4 になります。「異なる組織や世代をつなぐ取組の支援」ということで方向性としては、「多様な主体の相互理解や協働の促進」「活動を次世代につなげるための支援」ということで、こちらも協働というところで、市の関連する事業としては市民活動団体と市がどれぐらい協働事業をやったのかが一つ市としての評価する項目になると考えています。以上が施策の柱に紐づく市の取組と概要、方向性です。

18 ページは計画の推進体制と、計画の進行管理について記載をしています。推進体制としては、まず一つが「庁内における推進体制」ということで、協議会の中でもご議論いただいたように、全庁的、分野横断的にしっかり市の中で取組を進めていくことが必要だということ、こちらは市民活動促進会議という各局長級の会議などでもって調整を図っていきたいと考えています。(2) は、この市民活動促進協議会について、条例に基づく附属機関として、市長からの諮問に応じて、様々な市民活動促進に係る重要な事項について調査、審議をいただく役割があるということ、ここに書いています。

加えて(3)市民との協働による計画の推進ということ、先ほどの市民活動促進の基本原則にもあったとおり、市民の方の自主性とか市との対等な関係とか、相互理解、情報公開と情報共有といったようなことがございますので、市民活動に関わるいろいろな人たちの声を聞くとか、あるいは共に施策に取り組んでいくということですね、打ち出していくとか、そのための取組も進めていくため、施策とか事業の実施状況とかを広く公開していくことはもちろんですが、市民の皆さんのご意見を聞く場とか協働の機会を、きちんと持っていきたいと考えています。

計画の進行管理についても、市民活動そのものを数値で測ることの難しさみたいなものは、答申で言及をいただいたところですので、先ほど申し上げたように、市の事業レベルでは数字で測ることもありますが、それ以外の質的な部分については、例えば市の方で、市民活動団体の皆さんにインタビューとか、ヒアリングを行ったりするだとか、市民の皆さん同士の交流とか、対話の、イベント的になってしまうかもしれないですが、そういった場を通じて関係する方が、市民活動についてどう感じられているのか、思われているのかということを知った上で施策に反映していくというような形で進行管理、数字だけでできた、できないを測るのではなく、そういった場をつくることで総合的に把握をしていくということを書いていきます。

19 ページ以降は、資料編ということで、用語やこの協議会のこれまでの会議の流れ、条例についてを書かせていただいています。説明としては以上です。よろしくお願いいたします。

(山岡会長)

ありがとうございます。答申に基づいて市の方で基本計画を作っていただきました。基本計画は、説明いただいた通り、基本的には答申をほぼそのまま受け止めていただいて作られている。少しだけ違うところは、取組の方向性とか成果指標とか、あるいは新たな図を使った表現だとかそういうところを、新たに追加やよりわかりやすく、より計画らしく作っていただいたということだと思います。

前段の部分は書くべきことを書いていただいているという感じです。進捗管理のところはまた別途の議題になっているのでそこで議論をいただければということですね。

(事務局)

そうです。ただし、つながる部分もあるので、事務局としてはそれぞれで議論いただいた方がいいかなと思うのですけれども、もし話がそこに及ぶようであれば、その時にまたご説明をさせていただければと思います。

(山岡会長)

この進行管理の評価のところは別途の議題がありますけれども、この計画に記載のところや関連するところでお気づきの点があればご意見いただければと思います。それでは推進基本計画について、ご意見ご質問などいかがでしょうか。

(川村栄司委員)

印象としては答申の方では割と私たちの生の声がかがえる記述になっているのですが、役所がまとめていくと、役所的な硬い表現だったりニュアンスが伝わりにくかったりしている。委員の皆さんの熱意の部分が感じにくい文章になっているという印象です。

それから18ページの3番のところに「計画の進行管理」というのがあるのですが、冒頭で「市民活動そのものを数値で測ることはできません」。とうたっていただいています。一方他のページでは数値目標、数字が入ってないというところがありますけれど、これが出てくるのは役所的にはやむを得ないと思っておりますが、18ページの冒頭で3番の冒頭で「数値で測ることはできません」とうたっていただいたことは大変良いことだと思います。

それから本体ではないのですが、用語集が20ページからついておりまして、気になったのは、21ページの下から2番目に「プロボノ」がありますけれど、ここに書かれている説明書きでいいと思いますけれども、弁護士・税理士など各分野の専門家がうたわれていますが、全然プロボノって

いうものについて知識のない方が読んだ場合、国家試験みたいなものを受けて、資格がある人のことを言うのかと読めてしまうと私は思いました。実際にはプロボノのってというのはそういうことではなく、もっと広い概念で例えば資格ではなくても会社の経理をたまたまやっていて経理に詳しい。だから NPO なり任意団体の経理を手伝いできますよと。今コンピューターをいろいろ使いますので、テレビのニュースでも見たことがあります。大手のシステム開発の会社なんかはプロボノを推進しているということを知っていますので、例えば、弁護士・税理士の後にシステムエンジニアというようなこと、システムエンジニアももちろん資格もあつたりしますが、資格がなくてもシステムエンジニアという人はいるので、国家資格と関係なく、仕事というか職種というか、そういうものを少し例示した方がプロボノの意味が伝わるのではなんでしょうか。

(山岡会長)

ありがとうございます。いくつかありますけど、基本計画の位置づけというのは確認しておいた方がいいかなと思います。答申は協議会で作るものですから、諮問を受けて協議会の中で議論した、協議会としての意見ですけど、基本計画は市が作るということですか。

(事務局)

市が策定する文書ということです。

(山岡会長)

ですので、協議会はこう言っているけど、市としてはそう思わない、受けとめないという場合もあるかもしれないし、あくまでも行政が作るものということで位置づけが違う。ただこの基本計画は答申をほぼ受け止めて計画に盛り込んでくださっているかと思います。あと個別の指摘について、プロボノに関する記述がちょっと違うと思います。資格はいらないと思います。専門的な、だけでいいのではないのでしょうか。

(深野委員)

深野です。よろしくお願ひします。今会長のお話を伺って、答申全てが反映されるものではないのか、というのを思ったところですが、とはいえ、答申で一生懸命皆さんご意見いただいて、いろんな意見も出て、かなり熱のあるお話をさせていただきました。それが計画には反映されるべきだと私は考えています。そういう意味で、例えば施策の柱 1 のところですね、方向性のところですけど

れども、答申では、その方向性が3つあって、その中でも1番目2番目はこれに反映されているのですが、3番目がここには全く触れられていません。私がやっぱりこの市民活動を促進していくためには市民性獲得とか主体性の醸成という意味でシチズンシップという言葉がいいのか市民意識という言葉がいいのか、それはおまかせしますっていうか検討したいと思いますけれども、そこへの言及というのはやっぱり必要ではないか。体裁上この方向性が全て2項目でまとめられているのかもしれませんが、そういったその体裁上ではなくて、やっぱり必要なことは記載すべきではないかなというふうに私は考えます。そういう意味で、この市民性の獲得、あるいは主体性の醸成といった意味でのシチズンシップの獲得のための学習機会の創出といった方向性というのは計画の中にも、ぜひうたっていただきたいなと思います。あともう一つ、そういった意味で自治会活動への言及というのが答申においてはかなりなされていて、市民活動団体あるいはボランティア団体だけが市民活動をしているわけではないよねっていう話をしてきたかと思いますが、そこへの反映がこの計画の中ではちょっと感じられない、見落としているのかもしれませんが感じられないので、それについてはどこかで触れられるべきではないかなというふうに思います。生活指標についてはまた他の皆さんのご意見をいただければいいかと思いますが、この数値目標だけでの見える化だけではちょっと今はあまり変わらない結果になりはしないかなというふうに心配をしています。以上です。

(山岡会長)

いかがでしょうか。

(事務局)

シチズンシップについては入れなかったというわけではなくて、答申では「施策の方向性」ということで「シチズンシップを育むための学習機会の創出」を含めた3つの方向性を書かせていただいていたところですが、計画でどこまで細かく記述するか考えたときに、施策の柱1、市民活動を身近に感じられる機会の創出の中に、「関心や意識を醸成する学びの場」という表現で(シチズンシップについても)含んでいたという認識でいました。ただ、深野委員がおっしゃるように、しっかりと個別に議論いただいた部分でありますので、計画の文章の中で分かる形に直していきたいと思えます。ありがとうございます。

自治会活動への言及についても、おっしゃる通りで、表現が直接的に出てこない形になってしまったと思いましたので、反映させていきたいと思えます。市の市民活動促進条例が、以前も話に出た

かと思いますが、「THE 市民活動」というような NPO 等が念頭にあるような表現となっていますので、少し引っ張られている面はあるかと思いますが。日常の一部としての市民活動の実現の施策の柱2のあたりだとか、目指す姿であるような、当たりまえに活躍できるとか、支え合いができるということは、自治会活動とか、日頃からの生活を含む中での支え合いも含まれていると思いますので、それらがわかるような表現としたいと思います。数値目標についても第3次計画の書きぶりに引っ張られているところがあります。個別の事業としては、やはり数字で、税金を投入して結果どの程度できたのかは表現していく必要もありますが、ここに書いてある成果指標だけで施策の柱が達成できたかできないかの判断はできないと思いますので、振り返りの仕方は後ほど議論いただきたいです。

(山岡会長)

ありがとうございます。他いかがでしょうか。

(木下委員)

前回、私からいろいろなことを話させていただいた点、概ね反映していただいたことに感謝いたします。施策の柱3の表現ですとか、SDGsの表現のあたりをスマートに修正いただいてよかったなと思っています。

計画になったときの印象としては、シチズンシップという言葉に対して私も少し発言をしたのですが、それはネガティブな意味ではなかったもので、この言葉が入る意味はあるので、用語として正しく伝えられるかどうかという課題があったかと思うのですが、見えていた方がいいと思っています。市民活動ということの中で「学びの場」と言われるだけではなくて、シチズンシップって言葉が出てくることで、意味合いの広さが伝わると思いました。

それと、測り方というよりも、答申ですごく抽象的な、市民活動ってどういう方向性に促進すべきか、について議論したことが反映されてはいるのですが、計画に落とし込む事業のところ、実際に運営される担当の部署として、このために何をやるのかっていうのがあまりイメージできてないのではないのかという懸念、促進するための部署だと思うのですが、そのために動くのが市民活動センターなのか、市民自治推進課が主催で市民活動を取り上げてもらうためにこれとこれをやっていきますということなのか。例えばシチズンシップを育むための学習機会の創出をしてくださいと市民活動センターに言うのか。市民自治推進課がそれを主催するのかということ。市民活動のイメージをクリアにしていくのはいいけど、実際の事業に落とし込めるかという懸念はどこ



か出てきた気がします、それが出てしまったような印象があります。この計画の時点で主な事業と成果指標より上の部分は答申を反映してくださっているのですが、事業は今やっていることが書かれているだけなのかなという気がして、計画になったときに何をするのか、第4次としてのこの8年間にやっていくことがあまり出てきてないのは、これからのことなのかもしれないのですが、その主体が誰になるのかというところ。この計画を見たときにちょっと心配に感じました。

(山岡会長)

いくつかありますけど。

(事務局)

ありがとうございます。シチズンシップという言葉については委員がおっしゃるように、明確に表現したいと思っています。

2つ目の事業の主体についてですが、市の計画になるので、基本的には市がやる事業が載ります。市民活動センターも、市の施設なので市の事業という形で載ります。市民自治推進課と市民活動センターの役割分担というところかというと、市民活動センターは市民活動の交流の場や中間支援的な役割とか、場所の貸し出しとか、そういったものを通じて市民活動を促進していく施設としての役割をもっています。それ以外で市として直接やるべきものということで、例えば協働パイロット事業だとか、ふるさと応援寄附金がこれにあたります。計画は市としての計画になりますので、他の課、例えば市民活動のきっかけになるような学習の場ということであれば生涯学習推進課でやっている講座ですとか、あるいはここに載っていないですけども、高校生向けのシチズンシップ学習のような事業もここに入ってきてよいのではと思います。今後8年間の事業については、今後計画を進める中で新しい事業が必要であれば盛り込んでいくことになると思いますし、既存のものでも改善した方がいいものもあるかもしれないので、計画を推進する中で毎年見直しをしていけると良いと思っています。

(山岡会長)

ここに書いてないけど8年の計画ですから、やっていく中で新たな事業が立ち上がるかもしれない。それは年度ごとで決まってくるわけですから。今あるものが書かれていると。

(川村美智委員)

川村です。木下委員のお話にそうだなと思ったのですが、協議会で話した中で、この取組について事業化するときには横断的にやること、全ての課が市民活動に関わっているという話をよくしていました。例えば、災害だと、地域総務課の方たちが関わってきて、自治会とか関わっていたり。そう考えると、細かいことはこれから考えていくとはいえ、この方向性に対してある種かなり強力に関わるような部署みたいなものは、できれば今のうちから想定しておいた方がいいと考えました。小中学生向けの学習をどうするかとか、小さいお子さんとお母さんのセットになったときの市民活動はどうかとか、そうすると子ども未来局が関わってくるので、ある種大まかでいいですけども、わりと密接に関わるような部署を想定していた方が事業を考える時に多様になるのではという印象を持ちました。基本計画は行政の所信表明みたいなものですよ。そのときにある程度の事業体系みたいなものは想定して書かれると、成果指標もより明確になるのかなという印象です。今ここに成果指標が出ていますが、この前の協議会で、今までやってきたことで簡単に測れるものはとりあえず置いておこうという話があったので、それはそれでいいとして、新しい指標みたいなもの、例えばこういう計画の中に星印をつけるとかですね、何かしてこの第4次では別な指標を持っていることとか、見える化すると面白いかなという印象です。

(山岡会長)

最初のご意見は推進体制に関する事で、要はちゃんとあらかじめ分かるように具体的に記載したほうがよいということですね。ここでは「関係部局」や「各機関」と書かれているけど。

(川村美智委員)

ここに書き込めるかどうかかわからないですけど、分野だと男女共同参画の基本計画だと、この後に事業の実例が出てきて、それを主にやる部署が出てくる。その先の段階ということです。

(事務局)

計画のつくりの部分ですが、どこまで関連事業を入れるかは悩ましいところでして、例えば市民協働とか、市民活動団体と連携した事業となると、単純にそのキーワードだけで各課の事業を拾っていくと膨大な量になる可能性があり、こうした行政計画では、関連する事務があまりずらっと出てくるとわかりにくい部分もあると思っていますので、委員がおっしゃったように、星印じゃないです

けど、主な事業というか、リーディングというか、そういった形で入れるような感じで考えていき  
たいと思います。ありがとうございます。

(山岡会長)

成果指標についてのご意見は。

(川村美智委員)

例えば数字では測れませんと言っているのですが、例えばアウトプットでこのくらいやって、実際  
にはどのくらい成果、変容があったものを星印入れていくことができれば、第4次の意味合いが  
出てくるような気がします。第3次で出てきた課題を整理して下さって、これを受けて第4次が  
できていることは整理されていると思います。それだけに第4次では、ここをポイントにするとか、  
数ではないけれども、量的な、質的なことで測定するという形になると明確になるかなという意  
見です。

(山岡会長)

いかがでしょうか。成果指標についてはまだ途中な感じですよ。

(事務局)

今おっしゃっていたのは、計画の中で、3次計画でこういった課題があったということに対して4  
次計画でそれが解消されたのかが、わかるようにするということでしょうか。

(川村美智委員)

解消まではいなくても、こういう課題が出ているので、それに向けてどういう対策をするのかと  
いうところが、もう少しはっきりすると計画が生きていくのかなという印象です。

(事務局)

ありがとうございます。課題があって、それに対して、4次ではここを強化してき、それがどう評  
価、最終的に達成できたのかの表現は、成果指標の部分もあわせて考えていきたいと思いま  
す。

(山岡会長)

他いかがでしょうか。

(池田委員)

今皆さんおっしゃっている計画に対する成果というものを出したいということはずごくよく分かります。ただ、これは8年間の計画です。現状すごい勢いで地域は変わってきています。毎年4%の人が減っている地域とかが出ている中で、今までの8年間やってきた計画と今回の計画を同じレベルで考えてしまうのは、逆に活動を狭くしていく気がします。市民活動というものが全分野のベースになるものである場合に、関係部署とかまで書いてしまうのは正直疑問がわきます。事業についても変化していかないと間に合わない時代がやってくるという中で、ここまで一生懸命に討論されているような形になってきて、結果を見たいとか、この先も管理していけるようなものにしたいの分かりますけれども、逆に時代にそぐわないものになる可能性の方が高いのではないかと考えています。

(山岡会長)

意見としては、数値目標はむしろ入れなくていいということでしょうか。

(池田委員)

入れてもいいのですが、数字の指標というのはとても大事ですけれども、そこにあまり重きを置きたくない。重きを置くのであれば、それが変わってもいい前提を盛り込んでおかないと、どうしても計画に縛られた活動になっていくので、注意が必要です。なので、後で発言しようと思っていたのですが、例えば自治会とかに関して、例えば小さな自治会であっても年間大体1,000近く活動しています。そのあたりの把握までは本当は含めるべきだと思っています。やはり市民活動の中に自治会活動が入るのであれば、例えば70ある連合自治会、全てがどれだけ活動しているのかっていうのを数値で入れても良いのかもしれないという部分もありますので、そこまでやっていく必要もあると思うのですが、私は答えを持っていないですけど、数値というのは非常にわかりやすいので、ありながらも、減ることが悪いことではないという前提を踏まえるという、例えばそういう感じかなと思っています。

(山岡会長)

ある意味こういう長い年月をかける計画の限界ということですよ。その限界が、変化が激しくなるにつれ、より近くなっていく。コロナなんか本当にそれで、働き方をはじめいろんなことが大きく変わって、それ以前に立てた計画の数値は、ほぼ意味がないということはたくさんあります。おっしゃる通りで、そういうことを当然想定していることが必要だと思います。ささやかかもしれないけど、計画も途中で見直しは1回ぐらいは入りますよね。そういうところできちんと確認をすることが必要だと思います。

(事務局)

ありがとうございます。計画自体は4年で1回見直すことを想定しています。答申で議論いただいた中でも、しなやかに変化していくということはキーワードとしていましたので、変わっていくことは前提でいいと思います。計画は作るのですけれども、例えばこういう協議会の場合は少し下のアクションというレベルで市の取組だとか、主な事業の取組状況とか議論いただけるといいのかなと。計画自体は大枠で、8年間の計画という形では立てさせていただきたいのですが、その内容で8年間通していかなくてはならないということではなくて、それをベースに、足りないものとか必要なことについては、個別に事業化するということを進める形になると思います。計画の中では変化することが前提であるというようなことは触れさせていただけるといいと思います。

(山岡会長)

今のようなことを入れるとすると、第2章のところにそういう含みを入れてもいいかもしれない。まさに急激な変化が起きている。そういう認識の中で計画をつくったのだから計画自体も当然変化していきますので、そこを強調すればいいと思います。

(山本副会長)

事前に拝見しておきながら、こうやって改めて綺麗な形で見ると、たたき台だと思って率直に申し上げますと総花的になったという印象を持ちました。例えばシチズンシップが話題に上がった、全庁的という言葉を入れてくださったりしたこととか、市民活動側も横断的に支え合うとか、越境的に何かしようっていうキーワードですとか、評価は難しいですけど、量的ではなく質的評価も見逃せないということとか、あと、ここにはクリアに出てきてないですけど、対話ももっと具体的な機能として必要ではないかという議論ですとか、あと今話題で出た、なぜならそれらはこれから変

化していくことにあたって、あそこを目標に、じゃなくても、グラグラ揺れているから、グラグラ揺れる中でみんなの意思を決定していくっていう、その振る舞いをもっと身につけていこうってことだと思います。答申を含んでくださっていますけど、ポイントに対する思いっきりが足りないような気がしています。文章的にも庁内でご納得いただける範囲で思い切っただけいたら嬉しいなど。これ羅針盤なので、読んだときにどこを引っかけたらいいのかなと、心が躍るポイントがよく分からなくなっていたのですね。答申を読むとなんだか伝わる気がする。それは骨格となるキーワードが綺麗に整地されてしまったのでよく見えなくなっている気がしまして、文章のトーンの話にもなってきてしまうので、皆さんの発言の方が具体的だと思いますけれども、そういうことを気にして書いてくださると見えてくるものが違うのではないかなと思いました。特に2つ、1つ目は進行管理。これ結構画期的なことを言っているのですが、例えば3行目に、社会情勢の変化を踏まえたり、質的な変化に注目したり、とまるめなくてよくて、言い切る。例えば例示ではなくても変化を踏まえなきゃいけない、質的な変化も着目しないと、何も数値だけでは捉えられないっていうこと、意思を持ってはっきり言われればどうかということとか、副次的ですけど丸め方としては課題もですね、囲みで課題と書いているのが、これは課題ではなくて、課題を受けての施策ですよ。これもネガティブワードになりがちであるというお気持ちわかりますけど、課題なら課題で、課題のあとに施策があるのでそれを分けて書いた方がいいのではないかなと。そういうポイントを意識して言い切りに変えていくと同じ素材でも見え方が全く違ってくると思いました。あと、事前に会長と打ち合わせの中で、とてもクールなので、肌触りがちょっと足りない気がして、イラストを入れたらどうでしょう、ポイントになる、例えばシチズンシップとか横断的いう象徴的なものをイラストに入れていくと、市民の方もこういうこと言いたいのだなと、4次のポイントってこういうことだなんて、わかるような気もしました。ありがとうございます。

(事務局)

ありがとうございます。表現は川村委員からもご指摘あったように、硬くなってしまったので、市民の方に見ていただくことを考えると、ある程度柔らかい表現にすべきと思いますので、山本委員からのご指摘の点も、言い切ることだとか、言葉の使い方も含めて再度精査していきたいと思えます。ありがとうございます。

(山岡会長)

ありがとうございます。次の議題もありますので、ここで今出し切れなかった意見があると思いますが、この後の作業スケジュールについて事務局の方から説明をお願いします。

(事務局)

この後、ご意見あるようでしたら、メール等で事務局までお寄せいただければ、確認して反映させるようにいたします。今日いただいたご意見を踏まえて計画は修正し、この後、役所の中での調整に入り、了承を得られればパブリックコメントとなります。今のところ、11月の下旬ぐらいから1ヶ月ほどの期間でできるように作業を進めていきたいと思っています。その後、パブリックコメントの結果をまとめまして、意見の一覧と、必要に応じて計画の中に反映させていって、1月中旬に協議会を開催させていただいて、パブリックコメントを踏まえた案を提示いたします。その後、役所の中での最終的な意思決定が行われて計画の策定となります。

(山岡会長)

ありがとうございます。後から読んで気がついたということもあると思いますので、事務局の方にご意見を出してください。続きまして本日の議題、進捗管理についてです。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

計画の進行管理の関係で議論いただいたように、数字だけでは測れない部分について、どう測っていくか、計画に関して達成状況、進み具合をどう確認していくかを考えており、4つの方法を想定しています。まず個々の事業に関する直接的な評価については、なるべく数字で達成状況の確認をしていきたいと思っています。その下の市民意識調査は4年に1回程度できる調査で、無作為抽出で市民の方にアンケート用紙を送って市政全般に関する質問の中に、市民活動に関わる部分も入れて、例えば市民活動への参加経験だとか、今後参加してみたいかとか関心のある分野、あるいは参加していない人にその理由を聞くとか、結果は何%という形で、数字で出てくる部分ですから、こちらも活用していきたい。特徴としては市民活動に関わる人だけではなくて、無作為抽出で選ばれるので、触れる・楽しむとか、あるいは動き出す、こういった部分がどれぐらい市民の皆さんに広がっているのかをチェックできる調査と思っています。逆に、質的な変化をどう把握していくかについて2つ考えてみました。1つは市民活動団体のヒアリングということで、実際に市から年間何団体か、市民活動を実践されている団体に対して、団体が抱える課題、どういう活動に取

り組んでいて、その進捗状況とか、活動の基盤の部分はどうされているとか、市の施策が有効に活用されているのか確認するためのヒアリングなどもやっていけたらと思っています。市民活動センターでは普段からそうしたやり取りがありますから、市民活動センターにも協力していただいて、団体の声を拾っていくことができるといいなと思っています。この部分は、施策の柱で言うと、創る・実現するとか、つながる・変わる、の観点で把握ができると考えています。併せて対話の場づくりというところで、市民活動に関わる方々を対象としたワークショップとか対話の場に出た意見が、今後の展開の手がかりを得られるようなものになるのではないかと思います。

数字で測れる部分と、実際に声を聞きながら、このような様子だということがわかるような、そんな方法を組み合わせて、計画の進行管理をしてはどうかというアイデアを考えていました。皆さんの方で、もっとこういう調べ方はどうかとか、把握の仕方、対話の場づくり、ヒアリングについても、こういった視点で進めていく必要があるのではないとか、そういったご意見をいただきたいと思っています。

(山岡会長)

進捗管理について、ご意見、ご質問いかがでしょうか？

(大畑委員)

進捗管理の中で、市民意識調査のことで気になることがあります。静岡市民って無関心なところがあると、災害ボランティアに行ってきましたけど、出てくる人は本当に静岡市民が少ない。他のボランティアも行っていますが、それほど自分のまちのことなのに無関心なのかなと感じました。出てくる人はほんの一部です。例えば浜松と比べて、浜松は「やらまいか」という文化ですよ。静岡は「やめまいか」と言われていますけど、そういうこととか、しがらみがすごく出てくる。そういう無関心ということもありますので、市民意識調査はすごく期待しています。どういう内容で市民の本音を出してくれるのかは非常に気になります。そこを注力していただいて、アンケートを作っていたらと思います。

(山岡会長)

いかがでしょうか。

(事務局)



質問の項目はとても大事になってくると思います。これまでも3次計画を進める中の経緯の中でいうと、市民意識調査で「市民活動に参加したことがありますか」と聞くと、どうしても皆さんNPOとかボランティアを想定し、低い数字になりますが、「自治会や町内会活動を含む」という補足をした設問にしたところ、数字が上がった。今年度実施した市民意識調査ではあえて質問を「自治会、町内会による活動に参加したことがありますか」と「NPOやボランティアなどによる活動に参加したことがありますか」を分けました。自治会とか町内会の方は「参加したことがある」は76%、NPOやボランティアなどによる活動は23.8%という結果になりました。聞き方によって違ってきてしまうのかなというところがあるので、設問の立て方は注意しながら、やっていく必要があると思います。

(山岡会長)

いかがでしょうか？

これ、やるのは大変だろうなって、でもここまでやっていただいたらそれはすごくいいことだと思います。また、それぞれの評価の方法に対する観点、どういうところを押さえるものか明確に示していただいているのは、わかりやすいと思います。ただ、例えば対話の場づくりとありますが、これを実際どうやってやるのかということは難しいのではないかと。対話の場をつくったので来てくださいと言っても、誰が来るかなっていう気もするし、いつも同じ人が来てしまうとか、その辺の工夫は必要な気がしますけど、何かもし今の時点でお考えがあれば。

(事務局)

確かに計画についての話をしたいって思う人は少ないと思うので、そこは裏テーマとして、企画者としては意図を持ちつつも、参加を呼びかけのときには見せ方というか、例えば防災とか環境とか少し絞って、複数回やってみるとかそういった工夫をしていけたらと思います。

(山岡会長)

同じような視点で②のヒアリングのところですけど、年間4~8団体を想定して、数に限りがありますが、団体をどういうふうを選定するのでしょうか？

(事務局)

できれば多様な、いろいろな形の団体の方にお話聞けたらいいなと思っていますので、NPO 法人であれば、私どもの方で認証事務をやる中で、例えば事業の規模でも見られるかと思ひますし、自治会や町内会でしたら、先駆的というか、リードされている取組をしているところを中心にちょっとお話を伺ってみるとか。活動の分野で分けてみるとか、そういった形でできるだけいろんな団体さんに聞いていけたらと思っています。ただ基準を作ってどうこうっていうと、複雑な感じになってしまうので、明確な基準は設けずに、関わりのあるところ、特徴的な取組をしているところをピックアップしながら、またいろいろな組織形態の団体にも聞いていきたいと思っています。

(山岡会長)

若干懸念するのは、うまくやれている団体ばかりヒアリングすると、うまくいっているように見えてしまうので、基準を設ける必要はないと思ひます。ぜひ市民活動センター等に相談いただいて、そういうことがバイアスにならないように選定していただければと思ひます。

(川村栄司委員)

対話の場づくりですけど、やること自体は良いですけど、これって計画の実施じゃないかと思ひます。説明文の最後に「今後の展開等についての手がかりを」と書いてあって、そこが管理だということだと思ひます。進捗を管理するという中に入っているのだから、「今後の展開についての手がかりを」の後ろに、「それによって進捗状況を知る」とか、そういう一文を入れた方が管理という全体の項目に合うような気がいたします。

また災害ボランティアの関係で私も実は1回行ってまして、災害ボランティアセンターの扱いについてはそうかもしれません。通常、災害が起きたときのボランティアというのは、社会福祉協議会が中心になりまして、災害ボランティアセンターというのを立ち上げるのです。ここに登録をし、ボランティア保険に入り、そしてチームを組んで行くのですけれど、確かにそこは特に葵区、清水区あたりが、人が集まらなくて、登録自体は3,000人以上あるのだけれども、その人たちも毎日稼働できるわけではないので、足りないからあと100人ほしいよと毎日発信されていて、今はだいぶ縮小はしてきているのです。その部分は私もあると思ひます。反面、災害ボランティアセンターではないところで、NPO だとか市民団体さんが自主的に動いている部分が結構あります。清水区が広範囲に断水したとき、生活用水が足りない、例えばトイレを流す水がないとか、非常に困難な状況が長く続いた。その時にかなり早い段階でペットボトルに水を入れて草薙駅の南口のイベント広場にそれを持ってきてくださいと呼びかけた団体があります。私もそれに協力

したのですが、そういうことだけじゃなく、かなり動いているところでは動いていますので、社協のボランティアセンター以外でも動きがあったということはお伝えしたいと思います。

(山岡会長)

他いかがでしょう。

(深野委員)

対話の場づくりについてですけども、これを入れたことはすごくいいことだなって率直に思います。ただ、これをして何をしようとしているのかっていうところ、目的をもう少し明確にした方がいいなと思っていて、ただ、計画についてこうなりました、ああなりました、こんな感じを持ちましたっていう意見出しだけではもったいない。そこで出た意見をどのように行政の方で反映する仕組みがあるのかなのか、こういうふうに活かしていきますっていうのはあらかじめ明確にした上で、対話の場づくりをしていくことが必要だと思います。対象についても市民活動に関わる人を対象としてとありますけれども、もう少し裾野を広げて、あるいはもう無作為抽出やりますよぐらいの思い切ったところで、市民活動というのはこういうことですよというのを情報提供した上で皆さんに考えてもらうような、対話の場づくりであったり、そういう計画を市としては持っていますよという周知の場として活用していけばいいのかなと思います。川村さんもおっしゃいましたけれども、この大雨の中でかなりの団体さんがかなり自主的に活動していて、そういったことって、関わっている、周辺にいる者は頑張っているし、何か手伝わなきゃって思うのですが、多分知らない方も大勢いらっしゃると思うんですね、そういったときに、市民、それこそ市民活動ってこういうところでやっぱり力を発揮しているし、必要になっていたというのも情報提供しながら、だから皆さんもこういった活動に積極的に参加してほしいというようなことを共有できるような場になるとすごく計画についても活かせるのではないかなと思います。そこで出た意見をぜひ計画に反映していくような仕組みがあるといいなと思います。もう一つ、長くなっちゃいましたが、もう一方今まで市の中であったパイロット事業ですとか、協働市場とかそういった施策はあると思いますが、この協働の市の施策と市民活動との関連みたいなところの仕組み、あるいは位置づけですかね、そういったものも一緒にやっていくとより両輪が回って良いのではないかと。市民にとっては言った意見がどのように具体的に施策に反映されているのか、あるいはこういうふうに変わっていったよっていう手がかり、実感が得られるとより頑張る気にもなるかなと思います。

(山岡会長)

大事なところだと思います。民主主義ですよ。

(事務局)

例えばパブリックコメントは基準があって、例えば計画策定するときとか、大きい施設を作るときは市の義務になっていて、パブリックコメントはたくさん意見を集めようとしています。実際に意見が集まった後はルール上、一覧にして、それに対して市の考え方を示すことになっているのですが、集めるときは広報に力を入れても、集まった結果を出すときは集めるときほどの力が入れてないということはあると思います。私どもの課で、市民参画手続の所管をしていますので、この計画もそうですし、市全体として、意見がどう活かされたかも含めてお伝えできるような、何か仕組みを考えたいなというふうに思います。

(山岡会長)

対話の場なので、個別具体的な提案が出てくるという可能性はそんなにないかもしれないですけども、意見なりは、例えば少なくともこの協議会の中できちんと報告して、進捗管理だとか、計画の見直しに反映させることはきちんとお伝えした方がいいと思います。

(山本委員)

まず「進捗管理」と言いたくなるのは行政さんの基本なので仕方がないですが、進捗管理に既にはまらないアイデアが盛り込まれているので、先ほど川村委員が表現はもしかしたら変えた方が良くないかもしれないというのは一緒に、質的なところの2つは画期的であるがゆえに、的が未だに見えていなくて、どうなるか今この時点では皆さん言えないことで、だとすると大事なものは、もしかしたらこの前の話に関わることもかもしれないけれど、公開すること、絶対に公開するということで、せっかく「ここからネット」とか、これからどうしようっていう話があるようであれば、ここからネットの中だけだと潜ってしまうので、ここからネットでアーカイブもちゃんとある。やった直後も公開されている。年間例えば5団体あるとして、中間まで4年間やるだけで20団体が集まりますよね。きっとあまり外に出せない怒りの部分もあるかもしれないので、そこはうまくブラインドするとしても、言いたいことは何だったのかというのをインタビューのように公開していく。それを1年間やると、この団体に次聞きたいとか、協議会でも意見を出しやすいと思いますし、行政さん、事務局の方でも次はこういう展開かなって、時代によって、次を決めやすくなると思うので、第一に

絶対に公開すること。そういう意味で対応の方は本当に難しいのですが、進捗管理って言葉と真逆ですけど、遊び心を持ってですね、楽しくいろいろやってみる。多少ご批判があるかもしれないですけども、進捗管理のために市民活動に関わる人が施策の柱をテーマにとすると、陳情しか浮かばない、対話にならないのではないかと考えていて、だからもう市民活動に関わるではなく、何か言いたい、さらに池田委員のやってらっしゃる、自慢大会っていう名前をつけてらっしゃる。褒めてあげて、小さなモデル的な取組をまず褒める。例えば水害のことだと、自治会長さんとかはすごいことをなさった。ネットにも出てこないような方が必ずいるはずだと思います。市民活動の極みですけども、こういう方が一体何をしたのかフォーカスするような、ちょっと聞き出す場を作って、その後それから思うことを話す。その方が豊かな言葉が出てくるのではないかと。実験の場として多少のブレは承知してやるぐらいの理解があると。ここはどうどれだけ熱い言葉が出てくるか大事なことだと思っています。そういう捉え方をしたら良いなと思いました。

(山岡会長)

とても大事なことですよね。初めてこれからやることですからね。あまり決めつけられない方がいいかなと思います。

(池田委員)

池田です。ちょうど今自治会の話が出たのでちょっとそれも含めて、計画にどこまで入れるかというんですけど、現時点で自治会活動っていうのがまだ今すごく盛んだと思っています、ただこれから団塊の世代が75歳を超えてきて80代に入っていく。この8年間の間にその変化が起きる中で明らかに自治会活動を担える方は多分減っていきます。なので、実質的な自治会活動自体がどんどん衰退までは行かなくとも、小さくなっていくところがあるので、やはり静岡市も、そもそも自治会活動に対してどうするというのが明確ではないので、どこまで言えるかわからないですけど、やはりその自治会活動の活動を測れる要素というのは入れていただきたいなと思っています。明らかに小さくなっていく、ただ先ほどアンケートにあったように76%の方がやっぱ自治会活動に関わったっておっしゃるのであれば、今後多分市民活動のベースとしては、定点観測していく必要が、少なからずともあるのかなと思っているので、そこを掬えるようなことを考えていただけたらなと思います。

(山岡会長)

例えばみたいなことはありますか。

(池田委員)

比較的數字が取りやすいと思います。静岡市から連合自治会、連合自治会から単位自治会。単位自治会から組だったり班だったりっていうルートがもうできていて、いろんなことを吸い上げることができるので、全自治会アンケートというのを令和2年に取らせていただいたのですけれども、そういったルートはありますし、毎月のように配布物が行っていたりとはするので、簡単なアンケートを上げてもらうでもいいですし、そういうことはすごくしやすいと思います。年間会議数までいらないですが、活動数とかは出しやすいと思うので、数字であればそのあたりかなと思います。あとは意見としてはすごくいろんなこと言っている方が多いと思うので、そういうのを聞いていただくのは一つなのかなと思います。

(山岡会長)

いかがでしょう。

(事務局)

どういうふうに測っていくのがいいのかはすごく悩むところですが、自治会にその状況を聞くってことですよね。私どもの部署の方で普段から自治会の連合会だとか、会長さんとは普段からやり取りがあったりするので、もう少しそこから広げていける方法とか、把握の仕方っていうのが何かないか考えていきたいと思います。

(山岡会長)

いかがでしょうか？

(殿岡委員)

僕も自治会長さんに聞いてもらうのが一番いいのかなと思ってしまして、建設業なんかも2024年からも、週休2日制を完全にやらないと罰則がついちゃうぐらいの勢いで、だからそうなれば休みが多くなるから、こういうのが増えるのかなと思うけれど、最近リスキングとか、リカレント教育とかって学び直そうっていう風潮も国もやってきて、シチズンカレッジにいっぱい来てくれれば良いのですけれども、そう言いながらも、年金も65歳まで払わなければいけない、どうなっ

るのかなって僕も見えないところもありますが、変わらないのは多分地域で住んで地域の人の支えがないとやっていけないってことで、一番悩んじゃうのが自治会長さんかなと思います。できれば自治会長のアンケートだけは取っていただければ、良い意見が出てくる。わかりやすい何かヒントがあるのかなと思っているので、ぜひやってもらえればと思っています。

(山岡会長)

ありがとうございます。木下委員。

(木下委員)

私は量のところ、質のところすごく議論していただいたので、量のところで、毎回言わせていただいていますけど、市民自治推進課じゃなくていいと思います。というのは私自身、静岡市内の公園の管理をやっていて、会議室を借りる人が誰なののかについて報告しています。NPOなのか自治会なのか一般的なのかと出しているの、担当部署に問い合わせただければ出てくるはずですよ。アイセルも多分そうだと思います。そうすると、市民活動センターはもちろん中心事業としてあるけれども、参考データとして市が貸し出しているスペース全般の借りている数字は出せると思うので、さらに言えば、もし推進するのであればNPOを半額にしますって言うてくれれば、姿勢としては見えます。認定でもいいです。すると私たち管理者としては優遇しやすいです。それがここに出せれば、全庁横断でという姿勢を示しやすいのかな。都市局に行って、市民活動推進するためにこれをやってくださいって言うふうに言って、私たちも公園活用係から、そうしなさいと言われるれば、やりやすいというか、それを考えてない人からすれば、なぜと思うかもしれないですけど、市の方針として市民活動を促進していく姿勢を、民間の貸会議室業者に言うわけではないので、そういうことが出てくるといいなと思います。市民自治推進課の所管じゃない公共スペースをやっている人間からすると、波及効果が使えないと感ずるので、更に言うと、生涯学習センターの予約システムが及ばないです。おそらく番町センターにも及ばないので、統一したシステムにしてもらって、そこに借りる人たちの属性を押してもらえば、このデジタル化の促進にも合って、それがここからネットと繋がったりすれば、デジタルな把握って言うところで、市民活動そのもののあり方を問うわけではなくて、市の仕組みとして見えやすくなるし、借りやすくなるしという意味では、いいかな。いち公共施設の運営者としては。

(山岡会長)

一つは施設の所管を限定しないということ、あとは利用の仕組みについての提案です。

(事務局)

麻機緑地の関係については自分も所管課に聞いてなかったなので、確認します。一方でどうしても各施設・各課ですね、とっている数字というのは微妙に違っていて、例えば生涯学習施設の区分けでいうと、NPOとかではなく、生涯学習団体か、利用料金に関わる認定団体かどうかという区分けになっていたり、スポーツ施設はまた違う分け方していると思うので、それらをひっくるめて、市全体で仕組みとして統一できると、予約なり管理なり集計とか分析ができると、あるべき姿だと思うので、そういったのを見据えつつ、この計画の中でいろいろな市の施設とか、どんなカテゴリーで、どういう情報が集まっているのかというのは確認したうえで指標の一つとして、あるいはその進捗を測るための参考の数字の一つとして、活用できるか調べたいと思います。

(山岡会長)

そうしましたらこちらの議題も時間がありますので、今後の進め方について。

(事務局)

今いくつかご意見いただいた中で、主な事業とか成果指標とか、施設の利用のことだとかは確認して、また、対話の場づくりとか、市民活動団体へのヒアリング、言葉としては計画の中には少し入れているつもりでありますけれども、もう少しわかりやすくというか、少し伝わるような表現にしていきたいと思っています。その辺も踏まえて計画の方に反映し、パブリックコメントだとか最終的な策定に向けて進めていきたいと思っています。

(山岡会長)

ありがとうございます。こちらまたメール等でご意見いただければ。それでは本日の議題は以上となりますので、進行をお返しいたします。

会議録署名人

会 長